

小川 霞山^{かさん}

文化 3 年（1806）船越村船越（岩室村）の小川家十代の郡右衛門茂廻の次男として生まれる。家は幕末まで代々三根山藩（巻町）の割元であった。童名を潤造、号を聴泉亭と称した。若くして三条町の医師で南画家でもあった佐藤松垞に師事したと伝えられる。早くから良寛に親しみ、時折家を訪ねる良寛の人徳を慕っていた。天保年間に、招かれて国上の乙子神社の社守として迎えられ、子弟の教育にもあたった。

良寛書の真蹟を後世に相伝、顕彰すべく、詩歌碑建立を計画、諸家の布施を仰ぎ、安政 5 年（1858）6 月、碑を乙子神社境内に建立した。同月 18 日、建立の祝賀を兼ねて良寛の追悼会を国上寺で催している。また慶応 2 年（1865）5 月には萬元上人百五十回忌追善法要を本覚院、宝珠院と共に主催厳修した。

霞山はまた、花鳥・山水画を得意とし、船越や幕島の神社や小川家の格天井、諸家の襖や屏風・掛物などにすぐれた作品を残している。

文化 3 年（1806）生まれ。

明治元年（1868）11 月 17 日没 63 歳。